平成３０年度　第１回ナセBA運営協議会議事録

１．開催日時　平成３０年７月３１日（火）　午後３時～午後４時３０分

２．開催場所　ナセBA　１階　体験学習室

３．出 席 者

（委員）

加藤公一（米沢市第三中学校校長）
海野耕二（米沢商業高等学校校長）
我妻　仁（我妻社会保険労務士事務所）
津山真由美（中部コミュニティセンター）
佐藤　繁（米沢市芸術文化協会）
大類雅子（米沢市芸術文化協会）
白田静雄（地元商店街）
小嶋千夏（主婦）

（事務局）

公益財団法人米沢上杉文化振興財団
種村信次（理事長）、岸順一（副理事長兼図書館長）、菅野智幸（常務理事兼事務局長）、青木昭博（主幹）、遠藤朋香（図書業務担当）、齊藤かおり（図書業務担当）、福石敏史（図書業務担当）、石黒志保（郷土資料業務担当）、生熊郁子（総務担当）、小松史織（総務担当）、川橋勇人（総務企画担当）

欠 席 者

（委員）

太田和広（米沢市関根小学校校長）
北口己津子（米沢女子短期大学）

４．開　会（事務局）

５．あいさつ（理事長）

米沢上杉文化振興財団が、伝国の杜とナセBAの運営をすることになり、それぞれの館に館長をおき、理事長を別においたほうが良いということで、今年の６月から理事長を仰せつかった。

ナセBAは、図書館だけではなくギャラリーもある複合施設という形で、地域の活性化を目的に建設された。そういう目的からも、トータル的な運営は地域にとって大事なものであり、期待も大きい。ナ

セBAは今年三年目、そろそろ入館者も減ってきている。来館者を増やすためにはどうしたらいいか、委員の皆さまから積極的なご意見を頂戴し、市民、利用者にとってより良い運営を行っていくことがわれわれの務めだと思っている。どうぞ宜しくお願いしたい。

３．委嘱状交付

４．委員自己紹介

５．職員紹介（事務局）

６．会長および副会長選出
会長に我妻仁氏、副会長に北口己津子氏が選出された。

７．議事
１）平成２９年度　公益財団法人米沢上杉文化振興財団運営自己評価について（報告）

２）平成３０年度　市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリーの主な事業について（報告）
（加藤委員）どれくらいギャラリーでは事業を行っているか？
（事 務 局）市民ギャラリーの自主事業のほか、貸館として様々な展覧会などが開催され、昨年度は約９０％の稼働率であった。

３）ご意見、ご提言

（小嶋委員）利用する母親の目線で考えている。東京から移住して７年目。キッズコーナーが充実していると思う。知り合いの方にも聞いてみたが、イベントに参加するのが好きなので、図書館に来るきっかけになるイベントがあるといい。特に冬期間、駐車場が離れているので大変だが、いろんなワークショップを企画して欲しい。昨年の絵本作家、ツペラツペラさんのワークショップ（Book!Book!Okitama 共催）のように、子ども連れで参加できるようなイベントを多く企画して欲しい。
８月の絵本のよみきかせも、友だちを誘っていきたい。また、夏休みの自由研究を題材にしたワークショップを開催したら、子どもが参加できるのではないか。
低学年の子どもは、騒いでしまい、ゆっくり本が選べない。こども用のスペースは、どこからでも入れる反面、子どもが逃げやすいので、入口を限定的に区切ってもらいたい。また、テーマ別など、本屋さんのPOPのような本のテーマが簡単にわかるサインを増やし、短い時間でも選べるような工夫をして欲しい。さらには託児サービスの時間を設け、少しの間でも子どもを預け、親も本を選べたらと思う。託児サービスとまでは言わずとも、本の読み聞かせの間だけでも子どもを預けられると親としてありがたい。

利用者数の拡大をということだが、小学校との連携を強化し、春休みや夏休みを使って本のスタンプラリーを行い、何冊読んだかでスタンプを集めるなどの企画はどうか。

（津山委員）スタンプラリーについては、うちのコミセンでもできたらいい、と思うようなすばらしいご意見だ。子どもたちが親御さんと一緒に来られるようにしてもらいたい。また、この建物は音がものすごく響く。あそこは子どもが騒ぐからだめだ、という親御さんもいる。スタンプラリー、短時間の託児サービスなどは、これからの時代に必要なもの。

米沢の中心部でも人が減ってきているのは、ひとつには駐車場の問題もあると思うが、今の環境のなかで、どうやって利用者を増やすかが大事だと思う。

（海野委員）利用者の減少は、どの年代層かわかるか。
（事 務 局）貸出冊数からは抽出できるが、来館者の年代層は統計がとれない。
（海野委員）本のリクエストは受け付けているか。
（事 務 局）毎月多くのリクエストが寄せられ、購入できるものはしている。

（海野委員）高校生のマナーが悪いことが、昨年からの課題であったようだが、本来的には高校生の利用は良いことで、高校生も他の利用者とともに利用したいと思っている。この建物が響く構造だということが問題ではないか。

英語の図書の充実もよいと思う。DVD についても、県立図書館に１年間勤めたときも当時は VHS だったが、利用率が高かった。

（加藤委員）マナーについて、昨年度の協議会の後に先生方に伝え、校長会でも大きくとりあげた。

以前テレビで見たのだが、北海道の本屋さんが１万円で選書をしてくれるサービスを行い、予約が３年待ちだという。人生が変わったという人もいる反面、私は自分で読む本は自分で選びたいなとも思っている。それを思うと、子どもたちはどれくらい本を読んでいるのか気になり、聞いてみたら１年で１回も本屋さんに行っていない人は、２８人中８人。この中には勉強ができる子も入っている。

図書館や本屋が遠いというのもあるのかもしれないが、最大の敵がスマホ。１時間くらいで使用を止められる子どもは、使ったほうがいいというデータがあるが、やはり使用率が高ければ、学力が下がる一方だ。どうやって本を読ませたら良いか。

美術で、２月の造形展、９月のこども展を見て感想文をまとめる宿題を出したが、これ以上手広くするのは難しい。

ためると特典がつくような、スタンプラリーは、こどもが喜ぶかなと思っている。

（佐藤委員）高校生の子どもが２人いる。図書館に行く理由を聞いたら、「ネットができるから」。

市内で Wi－fi が使えるところがあまりない。また近くにコンビニもある。市内には、高校生が集まる場所もない。図書館で、真面目に勉強している子もいる反面、それを超えて青春を求めている生徒もいる。

新館になる前の委員会にも参加し、建設地が変わり不便になるかなと思っていたが、工夫してやっていると思う。

レファレンスは、他館ではネットで受け付けている。デジタルコンテンツも図書館の機能の一つ。また近くのコミセンで貸借できるようにしてはどうか。ホームページについてはちょっと固く、検索がなかなか引っかからない、見づらく利用しにくいと思う。

ギャラリーについては、作品を保管できるようなスペースがあると冬期間は特に便利だと思う。

（大類委員）亀岡亜希子展のチラシを拝見した。第１６回のウッディコンサートは読み聞かせとピアノということでとても良い。本と音楽のコラボレーションが、もっと広がれば良いと思う。

（白田委員）お店をしながら、商店街の副理事長をしている。中心市街地活性化は、ナセ BA を中心に運動を展開していくのが一番だと思っている。朝掃除や、花いっぱい運動、山形大学工学部や米短・栄養大との連携も重要で、特に工学部の学生さんたちとうまく連携して、科学の楽しさに親しんでもらいたいと思っている。コミュニティの核として、大学・コミセンとの連携を強化していきたい。

(我妻委員長) 提出資料をもとに説明

（1）ナセＢＡ利用者増にむけた取り組みについて

①雑誌スポンサー制度

企業側が市民に読んでもらいたい雑誌を年間で購入し、広告をつける。他館でも行っている。

②時季にあわせた多様な特集コーナーの設置

今日コーナーを見たら、夏休みにあわせた素晴らしい特集だった。

③街なか応援団制度

図書利用カードを提示したら周辺飲食店、カフェの割引サービスが行われると、中心市街地の活性にもつながるのではないか。

④私がお薦めする本

各学校・大学の先生方、経済人、文化人の方々に、みんなに読んでもらいたい本、学生の時に読んでいた本など、おすすめ理由を書いたコメント付きで特集を組んでみてはどうか。

⑤この本がほしい

図書館にも予算があり大変だと思う。図書館としてこんな本が欲しいとの、PR をして本を寄贈してもらえるようにしてはどうか。

⑥リユースコーナーの充実

図書館に寄贈して良かったな、と思える工夫、サービスが欲しい。「割引券」を寄贈してくれた方に贈る。受け取った方へ向けた簡単なメッセージカードを書いてもらうなど。

（２）その他

①１Ｆエントランスのテーブル席の利用について

高校生がうるさい、ということに対しては、われわれが大人として責任をもって叱る、厳しい時代だが大事なことだと思っている。

②２Ｆ雑誌・新聞閲覧コーナー

通路として通らなければならないが、雑誌を読んでいる人に見られている気分になる。脇を遠慮して通らなければならない。コーナーを郷土資料の方にずらせないか。

（津山委員）公共施設ではルールを守るということを、私たちが高校生に注意し教えなければならないと思う。

（事 務 局）高校生をはじめ、利用ルールについてはきちんと対応したい。また、利用者数についてどの年代が、減少しているかなどより詳細に分析し、対策を講じたい。

さまざまな貴重なご意見を頂戴した。経費や人的配置の問題もあるが、今後の運営に役立てていき、第二回協議会でご報告したい。

（理 事 長）山形大学の中で、中学生のこどもたちを集めて大学祭みたいなものを行い、いい影響をこどもたちに与えている。それをここの図書館でやるか、というと多少難しい面もある気がする。また、米短・栄養大の学生が、来ているかということもある。

ご意見をさまざま頂戴しありがとうございました。

（事 務 局）次回の協議会は１２月か１月に開催したい。

８．閉会